

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 →資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり →児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和6年度 学校評価重点計画

小松市立粟津小学校
学校長 矢田真佐子

目指す児童生徒の姿

・ **学びに主体的（一生懸命）に関わる児童**

目標

- ・ 目標をもち、自らを調整し、粘り強く取り組む児童を育成する。
- ・ 関係機関と連携し、個に応じた指導と保護者対応を推進する。
- ・ 児童に向き合う時間を確保し、効果的な指導法を身につけ、学び続ける職員集団を目指す。

（1）学校の課題

現状

- ・ 学校を楽しんでいる児童が多く、協力しながら学習できる時間が増えつつある。
- ・ 保護者は、学校教育活動に協力的な方が多い。地域の方の学校への協力・支援も厚い。
- ・ 職員集団は共通実践を取り組もうと意欲的で、児童への愛情が十分である。

課題

- ・ 学力に大きな課題があり、授業改善を中心に学力向上に取り組んでいる。
- ・ 過去に対応したいじめ事案について、見守りを継続している。
- ・ 特別支援教育や生徒指導について、関係機関と連携を図り、個に応じた指導を実施すべく継続中である。

（2）具体的な方策と検証

①児童が学びの主体となる授業実践

- ・ 学力を保証する教師の指導力向上
- ・ 個別最適・協働的な学びのベストバランスの共有
- ・ シンNTT（ねらい・展開・適用題）を生かした主体的・対話的で深い学びの授業づくり

②自己指導能力を身に付ける生徒指導

- ・ 児童を主役にした児童会活動・行事・学級づくり
- ・ 生徒指導の4つの視点を生かした授業・学級づくり

③豊かな心と健やかな体づくり

- ・ 特別支援や不登校傾向児童への教育相談体制の充実
- ・ 特別な教科「道徳」の実践、全教育活動での道徳教育
- ・ 生活習慣の自己管理能力の育成

④「学び続け支え合う職員風土」の醸成

- ・ 効果的実践的短時間OJT（校内研修）の継続
- ・ 「憧れのチーム・教師・同僚・人生像」の構築：「教師で良かった」「粟津小で良かった」と教師生活に感動